

# 30P1-am003

薬局長期実務実習に向けての岡山県薬剤師会の取り組み

○出石 啓治<sup>1</sup>, 坪井 眞司<sup>1</sup>, 末田 芳裕<sup>1</sup>, 久保 和子<sup>1</sup>, 藤波 雄次郎<sup>1</sup>, 三宅 悟<sup>1</sup>,  
中本 行宣<sup>1</sup>, 牧野 和隆<sup>2</sup>, 手嶋 大輔<sup>2</sup>, 柴田 隆司<sup>2</sup>, 小野 浩重<sup>2</sup>, 江川 孝<sup>2</sup>,  
谷口 律子<sup>2</sup>, 工藤 一郎<sup>3</sup> (1岡山県薬剤師会, <sup>2</sup>就実大薬, <sup>3</sup>昭和大薬)

【目的】薬学6年制の開始により、5年後には薬局及び病院で各2.5ヶ月の長期実務実習が実施される。将来の実務実習はコアカリキュラム(コアカリ)に従い、参加型実習で進めていくことになっている。しかし、これまでの薬局実習においては、それぞれの施設独自の実習項目で実施されていることが多い。そして参加型ではなく主に見学型実習で行われており、将来の実務実習への対応については未知数である。そこで、今後の薬局実務実習への対応を考える目的で、本年度の岡山県内でのすべての2週間実習における実施結果について検討した。

【方法】コアカリ薬局関連部分より2週間用に抜粋した到達目標(SBOs)を予め準備した。そして、事前に受入薬局に対して講習会を実施し、コアカリのSBOs及び参加型実習で実施することについて説明した。しかし、時間的制約(2週間)があるため、学習方略(LS)については受入薬局で判断することとした。実習の実施結果は薬局評価表及び学生報告書の両方より検討したが、実施項目によって結果が乖離していたため、今回は学生の報告書からの実施結果を採用した。

【結果および考察】計数・計量調剤はほぼ実施できていたが、鑑査や服薬指導についてはやや少なかった。同様に、カウンター実習や地域での業務等での実施結果も少なかったが、これらは薬局でしかできない薬局特有業務であり、今後は実施するための対応が必要である。また、指導薬剤師養成ワークショップ(WS)への参加者が実習指導をした場合には、未参加者の場合と比べてより参加型実習を実施していた。今後、WS参加者を増やすこと及びコアカリ対応策を考えることによって将来の実習に対応可能な薬剤師、薬局の育成ができると思われる。